

2026年3月期第2四半期

IR決算説明会 主な質疑

- Q1. エンジン認証問題に起因する米国での集団訴訟があったが、影響はどのくらいか。
また、欧州など他の地域で、同様の調査はあるのか。
今後の当社の業績に影響を与えるものがあれば教えてほしい。
- A1. フォークリフトエンジン認証費用は、米国集団訴訟の和解金に446億円、
それ以外の費用もあり、第2Qでは、前年同期比647億円の減益要因であった。
今後の影響について、現時点では、時期も影響額も不明。
米国司法当局、環境当局およびカリフォルニア州環境当局による調査や協議は継続しており、
当社としては、引き続き対応していく。
他の地域などの調査について、現時点で申し上げられるものはないが、
該当の調査があれば、誠実に協力、対応していく。
- Q2. エンジン認証問題において米国集団訴訟の和解対象になったフォークリフトの台数を
教えてほしい。
- A2. 台数規模は北米における昨年度の当社フォークリフト販売実績は95千台だが、
その内エンジン車は20～30%である。
- Q3. カーエアコン用コンプレッサーの年間見通しについて、全体で100万台、
北米では50万台引き下げた。
またこの内、電動コンプレッサーを70万台下方修正とのことだが、
期初計画と何が違うのか。顧客・地域など教えてほしい。
- A3. 期初計画が楽観的だったかもしれないが、米国関税による自動車販売の不透明さが
影響してきていると考える。
電動コンプレッサーの減少については、欧州カーメーカーの不振、
中国での先進国カーメーカーの台数減の影響がある。

Q4. フォークリフト販売計画を引き下げたが、今年の後半に向けて、受注市場は回復してくると見ていた中、どのような変化があったのか教えてほしい。

A4. フォークリフト受注市場については、北米で若干弱くみている。
受注市場では、カレンダーイヤーで、前年並みという予想だが、当社としては、若干弱含みと考えている。
需給のバランスとしては、お待たせしている状況は解消されてきているため、需要の影響が早い段階で生産・販売に反映されてきている。

Q5. 米国関税影響の内訳について教えてほしい。

A5. 第1Qの決算説明会において、粗く計算するとグロスでおよそ500億円程度だが、今後対策していくとお伝えした。
実際の費用と対策の結果をふまえた第2Q時点での損益影響が150億円である。
主な対策としてフォークリフトは価格の値上げを実施し、コンプレッサーはカーメーカーに価格転嫁交渉を実施しているが、いずれも効果が出るまでにタイムラグがあると認識している。
年間での影響見込みについては、期をまたいだ時期ずれなどを考慮し250億円と想定している。
来期以降に今期分を取り返すこともあると考えている。

Q6. 第2Qの営業利益には、エンジン認証関連費用や米国関税の影響などの影響が反映されているが一過性の事象がなかった場合の実力値は、通期の営業利益 2,000億円程度という理解でよいのか。

A6. 一過性の要因として、エンジン認証関連費用と米国関税影響、加えて第1Qに子会社株式売却益が90億円ほどあった。これらを差し引きすると、いわゆる実力値に近しいものになるかと思う。

以上